

平成30年度 北海道立生涯学習推進センター研修事業
課題対応型学習活性化セミナー（道央会場） 事業報告

I 事業の概要

研修テーマ 地方創生の時代における教育行政のあり方
～各地域の強みを生かした地域間連携を目指して～

- 1 趣 旨 各地域の課題解決に向け、新たな学習スタイルの創出や他機関等との連携・協働などにより、住民の主体的な行動を促すための方策を考える。
- 2 主 催 北海道立生涯学習推進センター
後志管内社会教育主事会
- 3 期 日 平成30年11月8日（木）
- 4 会 場 後志教育研修センター（倶知安町公民館（文化福祉センター）3F）
倶知安町南3条東4丁目
- 5 参加対象 市町村及び市町村教育委員会職員、各種審議会委員（社会教育委員、生涯学習審議会委員等）、社会教育関係団体職員、生涯学習関連施設職員、民間団体（NPO・企業等）関係者
- 6 参加者数 21名
- 7 研修内容
 - (1) 説 明 「地域間連携について」北海道立生涯学習推進センター職員
 - (2) 事例紹介 「総合型スポーツクラブでの連携他」 胆振管内壮瞥町 蛭名 雄一 氏
「児童生徒の交流キャンプでの連携」 渡島管内鹿部町 瀧澤 静 氏
「日高管内社会教育職員連絡協議会の取組」日高管内新ひだか町 中村 真也 氏
 - (3) 協 議 参加者同士がテーマに沿って各地域の現状と課題について情報交換をし、説明をヒントにしながら地域間連携を目指し、どのような支援や取組をするべきか協議します。

進行：北海道立生涯学習推進センター職員
後志教育局教育支援課社会教育指導班主査 河村 武司

8 スケジュール

10:00		10:30		11:30		12:00		13:00		13:45		16:30		16:45		17:30	
開場	受付	開会	説明	事例紹介	昼食	事例紹介	協議		情報提供	閉会	個別相談						

9 活動の概要

- (1) 説明「地域間連携について」北海道立生涯学習推進センター 田中 尚史

はじめに、国や道が取り組んでいる地域間連携について、個々の市町村が行政の全てを単独で担っている現状から脱し、圏域単位での行政をスタンダードにしていくことを狙った「定住自立



圏構想」や「市町村連携地域モデル事業」が進められていることを紹介しました。次に連携するためには「目的共有」「連絡を取り合うこと」が必要であり、後志管内社会教育主事会の研修会等で「目的共有」をすることができるので、連携を進める下地があると説明しました。

最後に根室管内5市町の連携事例から、事業実施の前の年度から連携に向けた話し合いを進めていたこと、事業当日は全ての市町担当者が集まり、分担して事業を行ったこと、事業自体を管内主事会主催としたこと等を紹介しました。

- (2) 事例紹介「総合型スポーツクラブでの連携他」 胆振管内壮瞥町 蛭名 雄一 氏
「日高管内社会教育職員連絡協議会の取組」 日高管内新ひだか町 中村 真也 氏
「児童生徒の交流キャンプでの連携」 渡島管内鹿部町 瀧澤 静 氏



胆振管内壮瞥町の蛭名雄一氏からは、総合型スポーツクラブを介して、2町が連携していることについて、町同士の連携では、他町の事業に予算をつけにくいのが、団体の事業に予算をつけることは可能で、直接の連携よりやりやすいと話がありました。また、連携することで互いの町の課題が解決されたこと、連携のメリットについてもお話いただきました。

日高管内新ひだか町の中村真也氏からは、「日高管内社会教育職員研究協議会」について紹介がありました。この協議会は、社会教育主事以外にも管内連携の場、研修を受ける機会が必要だと、昭和54年頃から始まり、今では課長部会、社会教育指導部会、社会体育指導部会、図書部会、学芸員部会の5つの部会があること、日高管内の社会教育主事会が中心となり年間3回の研修を実施していること等が紹介されました。今年度、社会教育部会が独自に「ひだか未来塾」を開催するようになったことが紹介されました。

渡島管内鹿部町の瀧澤静氏からは、氏が中心となり、社会教育主事会のメンバーに働きかけて実施しているキャンプ事業について、お互い負担にならないこと、それぞれの町のスタイルを尊重することなどが連携のポイントとして紹介されました。また、キャンプ事業は中学生のジュニアリーダーが運営するようにしていて、子どもたちに力がついていることも強調されました。

(3) 協議

進行：北海道立生涯学習推進センター主査 田中 尚史
後志教育局教育支援課社会教育指導班主査 河村 武司



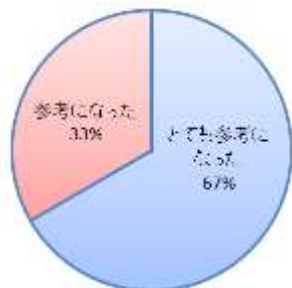
はじめに、参加者は自分のマチについて、社会教育を推進する上での「強み」と「弱み」を分析しました。それらを他の市町村の担当者と交流することで、他市町村に「弱み」を補ってもらえる連携の可能性に気づきアイデアを出し合っていました。

次に青少年につけたい力について協議しました。「やりぬく力」や「まとめる力」等が出され、それぞれについて社会教育事業で何をすれば、そのような力をつけることができるのか話し合いました。そして、実際に事業化するまでに何をしていけば良いのか、実現するための見通しを持つようにしました。

Ⅱ 事業の満足度

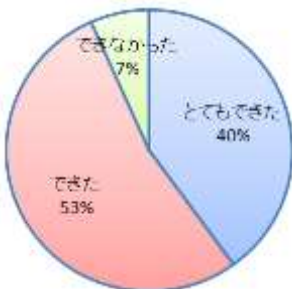
参加者に対して、本事業の満足度についてアンケートをとらせていただきました。（回答15名）

1 本セミナー全体を通して、感想やご意見をお聞かせください。



(1) 「各地域の強みを生かした地域間連携」に向け、本セミナーは参考となりましたか。

- 全体を通して他市町村の事例を多数聞くことができ参考になった。
- 足りないところを補う方法をいろいろ確認できた。
- 具体の事例から今後自分のマチでも行イメージができた。



(2) 地域の課題解決に向けた取組や方策について考えることができましたか。

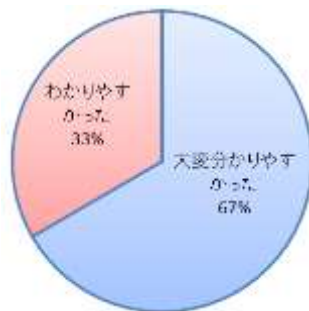
- 考えることができたので、すぐできるところから始めたい。
- 連携の可能性と方法を考えることができた。
- グループワークでたくさんのアイデアを聴くことが出来た。
- 他市町村との情報共有が方策だと思った。
- 事例をたくさん聴くことが出来たので今後考えたい。

2 プログラムの内容について、感想やご意見をお聞かせください。



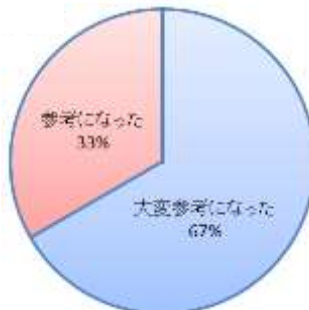
(1) プログラムの内容はいかがでしたか。

- 事例とグループワークが良かった。
- 参考になり、またおもしろかった。
- 課題への取組のヒントをもらえた



(2) 担当者の説明はわかりやすかったですか。

- 細かなところまで説明を聞くことが出来た。
- 同じ担当者からの話だったので分かりやすかった。



(3) 「協議」は参考になりましたか。

- 様々なアイデアを聞いた。
- 他市町村の話聞いたのが良かった。
- 子どもたちにつけたい力を共有できた。
- フリーな感じで意見を言いやすいのが良かった。

3 自由記述

- 他市町村との連携は事務処理が煩雑、意見統一が難しいなどデメリット面ばかりを考えがちだったが、事例発表を通じて多くのメリットがあると知り、参考になった。
- 多くの実践例を聞くことで、連携のイメージがわかりました。後志の主事が共通認識することで、今後の活動につなげていけると思います。